研究課題 (テーマ)	A 大学の看護学生における教育用電子カルテを使用した代替実習の体験		
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学科 母性看護学講座	助教	村上 利矢子
研究結果の概要			
<p>効果的な代替実習方法の基礎資料とするために看護学生の教育用電子カルテを用いた代替実習の体験についてインタビュー調査を行った。</p> <p>その結果、学生は代替実習で“演習で使っていたため情報収集しやすい”と【使用経験による使いやすさ】を感じ、“いつでも情報が見られることで進めやすい”と【電カルの利用時間が無制限】だが、“実習のときは素早くやらなきゃいけない”と【演習と違う短期間での展開】から、“知りたい情報を探して見る”と【情報収集のアプローチの工夫】を行っていた。更に代替実習として電カルを使用することで“臨床で教わって情報収集の流れをつかんだ”と【情報収集力向上の実感】を得ていた。また、“中断せずに実際と同じように実習できて良かった”と【代替実習の肯定】をし、“計画まではできた”と【実習としての達成感】を感じていた。一方、“ケアの計画を立てておしまい、ケアの実践はできない”などの【実践を伴わないことによる不全感】と“更新されないから、本来に近い形ではない”など【情報が更新されないことによる不全感】を感じていたことが明らかとなり、思考と実践を繋ぐ教育的な工夫によって学生の代替実習における達成感が高まると考えられた。本研究結果を第44回日本看護科学学会にて発表を行った。</p>			
今後の展開			
代替実習の授業設計と対応させて学生の体験を明らかとし、より実践的な代替実習における教育用電子カルテの活用方法の検討を進めたい。			